岳信仰が厚かったことを伝える古刹がいくつも残っています。紫雲山明覚寺もその一つ。農耕の合間にここで祈りを捧げたり、女人禁制の山に入れなかった女性たちが信仰の場としたと思われます」と生涯学習課の堤英介さんが教えてくれました。

また同寺近く、南集落の西端の一角に「正一位稲荷大明神」（南のお稲荷さん）があります。お堂の寄進札には、昭和47年の鳥居建立に寄進した人の名前が記されていますが、全て女性の名前です。堤さんによると「当時の60歳以上の女性たちのみが信仰者であったと思われます。以前は旧暦の11月8日に女性信仰者数名が堂内で夜通し『おこもり』をして祈願していたようです」とのこと。お稲荷さんは五穀豊穣、家内安全など生活にご利益のある神様です。家を守る女性だからこその祈りや願いが、こうした信仰と風習をつくりあげたのではないでしょうか。

この2つの神聖な場所は、毎月1日と15日に集落の人たちによる清掃が行われています。

荒川さんの庭に佇む、大きなギンモクセイに守られるように盆栽が育っています

大きなギンモクセイに守られる盆栽群

昔ながらの家並みが続く福田校区ですが、一方で若い世代のモダンな住宅も増えています。赤井川を見下ろす福原集落に暮らす荒川忠一さんに出会いました。何やら、庭の植木の水やりに忙しそうです。大きな枝葉を広げたギンモクセイの下に、数え切れないほどの盆栽が育てられています。

荒川さんが大事にしている「美男カズラ」。この季節、赤い実をつけます

「ハイボールと刺身での晩酌が楽しみですたい」と笑う気さくな荒川さん

「地震で多くの盆栽を失いましたが、再び育て始めて今は200鉢以上はあるでしょうかね」と言う荒川さんが盆栽を始めたのは40年前のこと。「若い頃は『盆栽はおっさんくさい趣味』と鼻で笑ってましたが、当時の会社の先輩から『盆栽の木が大きくなるのに何年かかると思う？ 10年でせいぜい人さし指ほど』と教えられて心が動いたんです」と振り返ります。

「夏場は1日2回の水やりが必要で、旅行にも行かれんですたい」と笑う荒川さんですが、手塩にかけて育てる盆栽群の小さな成長が何よりの楽しみのようです。

石仏に込められた孝行息子の父への思い

福原集落から布田川断層帯がある谷川集落へと足を進めました。現在、高台の場所に展望広場が整備中です。去る11月18日には植樹祭が行われ、町民の憩いの場の完成が待たれます。ここからの眺望は圧巻で、晴れた日は遠く島原の普賢岳を望むこともできます。

広場のすぐ近くにある仏像が「谷川の放牛地蔵」。仏像に込められた物語は、5代藩主・細川綱利の時代のこと。鍛冶屋町で鍛冶屋を営んでいた親子がいましたが父親は、不徳で武士を怒らせ斬り殺されてしまいます。息子はその非業の死を悲しみ仏門に入りました。それが僧の放牛です。放牛は長年の修行を終え10年の月日をかけて、父親の菩提を弔うために県内各所に107体の石仏を建立して回りました。その最後のものが、谷川集落に建立されたと伝わります。

孝行息子の父親への深い愛が込められた石仏に、手を合わせずにはいられません。

上／来年の完成が待たれる展望広場。ウォーキングやピクニックで訪れたいものです
左／谷川集落の高台にある「谷川の放牛地蔵」。親子の普遍的な愛を伝える石仏です